

# 2004年研究室活動記録

## 2004年度講義内容一覧

### 【比較成人教育論Ⅰ】 担当：教授・佐藤一子

「人権教育・市民教育の理念と実践」をテーマに、文献の検討や議論を行った。文献としては、学習権宣言など人権と教育に関わる問題を扱った日本語文献のほか、“Education for human rights” (Douglas Ray) 所収の英語論文が中心となった。人権教育・市民教育の実践報告が参加者からなされた回もあった。

### 【比較成人教育論Ⅱ】 担当：教授・佐藤一子

前期からの継続で、「人権教育・市民教育」の実践に関する文献を検討した後、社会教育学会編『現代の人権と社会教育の価値』(2004) 所収の各論文について検討を行った。前期に続き修士課程の参加者が多く、文献の基本的内容を確認しながら活発な議論がなされた。

### 【生涯学習論論文指導】 担当：教授・佐藤一子

ゼミ形式で、修士論文・博士論文の構想検討などが集団的になされた。4月にはM2の、9月にはM1の修士論文執筆予定者の報告に基づいて、問題意識の明確化を中心とした検討がなされた。博士論文構想の検討も多くなされた。また、個別指導形式で、修士論文・紀要論文・博士論文等の検討が行われた。

### 【社会教育基礎論】 担当：助教授・鈴木眞理

生涯学習・社会教育の領域における原理的諸問題について検討した。教育と学習、適応と解放、知識と体験、個人と集団、自発性と統制、変革と安定、官と民、理論と実践などのテーマで執筆された論文について、基本的な理解を踏まえながら、参加者がみずからの興味・関心・研究テーマなどに引き付けて考察を行った。

### 【社会教育計画論】 担当：助教授・鈴木眞理

生涯学習支援のための社会教育施設の活動・経営に関する諸問題についての基本文献をもとに、各種社会教育施設の課題を検討した。それぞれの施設についての概要を踏まえ、参加者それぞれが焦点を当てた個別の課題、各種社会教育施設に共通する課題についても考察を行った。また、施設の見学、職員の方々からのヒアリングも実施した。

### 【社会教育学論文指導】 担当：助教授・鈴木眞理

例年同様に、ゼミ形式を中心として、各自への論文執筆指導が行なわれた。修士論文執筆者に対しては、各論文の構想をゼミにおいて検討した。他には、ゼミ参加者あるいはそれ以外の筆者の論文を、社会教育・生涯学習関連の最新の紀要・年報等に掲載された中から各自の関心に沿って取り上げ、ゼミにおいて検討した。

### 【児童福祉・学校外教育論論文指導】 担当：客員教授・増山均

ゼミ形式で、参加者が自らの投稿論文・修士論文などの構想を報告し、それについて議論・検討した。教育福祉論や子ども組織論など、子どもの教育・福祉に関するものを中心にしながらも、社会教育職員の専門性の問題や社会教育学における権利概念の問題など、様々なテーマでの報告がなされた。

### 【社会教育学基礎理論Ⅴ】 担当：非常勤講師・山田正行

ライフサイクルが世代を通して継承されるという視点から、成人の発達の特徴を学んだ。フロイト、エリクソンを理論的基礎に置き、ブルデューやフーコーの理論にも触れた。具体的実践としては、戦争体験者である高齢者の戦争責任を問い、平和を訴える非暴力の営みを取りあげた。受講者のそれぞれの興味に従って意見が交され、議論が進められた。

### 【社会教育学基礎理論Ⅵ】 担当：非常勤講師・立田慶裕

成人教育学の近年の理論的動向を追うことを目指し、S.B.Merriam & R.S.Caffarella, “Learning in Adulthood” 1999, Jossey-Bass Publishers の邦訳を、各参加者の問題関心を交えて章ごとに検討した。アメリカの成人教育学講義で使用され、心理学・社会学・文化人類学等の視点から論じられている本文献の特徴を活かし、成人教育の国際的な動向を体系的・学際的に把握することが目指された。

## 学位論文

桑田夏子「博物館の「来館者研究」論」

佐藤智子「教育行政と住民のパブリック・ガバナンスに関する研究—“連携”と“協働”をめぐる関係—」

丸山啓史「知的障害者の発達保障と生活支援—ホームヘルプのあり方の検討を中心に—」